

想像の翼にのって— vol.13 国境を超えてつながる人々

1953年2月、NHKが日本初のテレビ本放送を開始、続いて8月には民間放送のトップを切って日本テレビが加わり、この年、日本における「テレビの時代」が幕を開けた。1960年にはカラーテレビ本放送が始まり、1963年は通信衛星リレー1号による日米衛星中継が実現、1964年は世界初のテレビオリンピックとなった東京五輪、1969年にはアポロ11号の月面着陸が世界中に中継された。そして、1987年以降、BS、CSなどの多チャンネル時代に突入、2011年には全放送がデジタル化されて今日に至る。

長い人類の歴史において、この65年間の「テレビの時代」は僅かな時間ではあるが、人の一生分にも相当する時間であり、この時代、この文明を生きたる人に多大なる影響を与えてきた。ここ日本においても、両手で足りる程の放送局が小さな箱を通じて届ける映像は、人の興味、理想の生き方、幸せのかたちといった、あらゆる基準を作り、欲望を生み出してきたと言っても過言ではない。そういう、僕もテレビで見るライフスタイルに憧れた、どこにでもいるテレビの時代の申し子であった。

テレビの急速な普及と内容に触れて、社会評論家がその状況を表した「一億総白痴化」という言葉がある。手厳しくはあるが、確かに、夜空の星をつなぎ星座を描いていた僕らの無限の想像力や思考力、本来、世界が持っているはずの多様性は、いつしか、テレビが切り

『一億総メディア化』

文 赤峰俊治

text by Shunji Akamine

取る価値観の小さな檻の中に入れられてしまった。テレビは多くの夢を見せてくれる反面、大切なことを判断するには情報量に乏しく、プロパガンダとして世論を特定の方向に導きかねない危険性を併せ持つ。

「インターネットの時代」となった今、映像メディアはテクノロジーの進化と共に、新たな機能と役割を持つことになる。インターネットの普及は「一億総評論家」と言われるように、良くも悪くも誰にも声を与えることになった。今後は、この声が反映される、インタラクティブ性を持つ映像メディアが一般化していく。そこには、これまでの一方方向の関係性にはなかった、双方向の「対話」と「監視」が生まれるだろう。

そして、テレビは放送免許を持つものだけに許された中央集権型の映像メディアであったが、YouTubeと呼ばれる人たちの登場を皮切りに、世界中からテレビに遜色のない視聴率や影響力を持つ、非中央集権型の映像メディアが次々と生まれている。「一億総メディア化」とも言える、多様な価値観が行き交う世界は、僕らの意識を小さな檻の中から開放して、人種、国籍、思想、歴史、文化、宗教といった違いを乗り越える、世界の相互理解につながる一つの力になれると信じている。



Profile

Arigato Japan Inc. CEO & Founder / Cool Japan TV Inc. CEO & Founder

1971年、大分県出身。

國學院大学卒業後、政府系金融機関の信用保証協会に入社。融資審査業務に携わる中で、企業にとって既存の商圏を越えることのできるインターネットメディアに可能性を感じて起業。オンライン動画を活用した行政や企業の情報発信プロデュースにおいて数々の実績を残す。もっとも面白いチャンネルを投票で決める「USTREAM大賞」を2年連続受賞。現在、52カ国に約7,000人の会員を持つ、オンライン動画スクールを運営。アジア最大のYouTuberネットワークを活用した、インバウンドプロモーション及びマーケティングを手掛ける。

<http://arigato-jp.com>